

業構造、就業構造が、第1次から第2次、第3次産業へとうまく転換してきているわけです。

ところが、現在の中国を見てみますと、第2次産業の工業部門が異常に突出しています。これまでにどこの国でも見られないような構造になっています。就業構造は、農業が多くを占めているという状況です。そのようなことから、これからは産業の高度化を進めなければいけないということと、サービス部門の雇用も整備して、充実していかなければいけないのではないかと思います。

もう1点、政府の役割で、かつてNIEsや後発のASEAN諸国は、いわゆる開発主義ということで、政府が全面的に市場に介入することによって成功を遂げてきたわけです。経済発展の初期の段階では、これは非常に妥当な戦略だと思います。

現在、世界的な金融危機が発生しているなかで、また政府と市場の問題が浮かび上がってきているわけです。これは政府の役割が、小さい政府か、大きな政府かということではなく、政府と市場は相互に補完しないといけないと思います。今度、新しくアメリカの大統領になるオバマ氏は、「smart and effective government」という言葉を使っています。大小にかかわらず賢明な政府

の在り方を模索していく必要があるのではないのでしょうか。

それから、李先生が指摘したグロスと1人当たりのCO<sub>2</sub>の排出ですが、もう1つは私のペーパーの表6の最後に、2005年1人当たりのGDPのPPP (Purchasing Power Parity) 換算があります。

今、このようないろいろな計算方法を議論する場合に、公定為替レートによる場合と、PPPという各国の経済の物価水準を反映した実勢に近いレートで議論する場合があります。最近は、貧困の格差や所得格差の国間の比較は、必ず全部PPPを使っています。

これによりますと、例えばPPPで、2005年の1人当たりGDPを見ますと、中国が1.0で、日本が0.3です。インドは0.6で、中国とインドは既に日本を上回っているということで、このPPPも新たに勘案して議論していったらどうかと思います。以上です。

○座長 ありがとうございます。時間がなくてコメントに対する十分な回答ができませんでしたが、ジャック・ホウ先生に総括的な質問ないしはコメントを、できれば10分以内でお願いしたいと思います。

---

## コメント

Jack w. Hou (カリフォルニア州立大学ロングビーチ校)

---

好，我尽量。首先跟各位道歉一下，因为服装不整，我当初不知道我需要坐上面，我根本没认出这个是我，等到我发现我要上来的时候领带来不及打，所以先跟各位道歉，服装不太整，更糟糕的是，我本来还不知道我要做评论人，我是到了这才发现，不过话又说回来，反正多数paper是日文我看也看不懂，我主要是听各位的报告，然后引发我一些联想，我们就这样子讨论，我就依着发言者的顺序讨论一下我的一些感想，等等。譬如说吴老师，讨论新古典学派的生产之外，还有其他的東西需要考量，这个我是绝对同意，昨天下午，我们在各个小组大致做一些事前报告的时候，我就有这个感想，

我们看经济开发，我是比较习惯叫经济发展，不管你是看经济开发还是经济发展，如果要有一个比较落实的方法看的话，就是要看食、衣、住、行、娱乐这几个阶段来看。那中国80年代是食、衣的经济发展。食，吃饱，穿得暖的经济发展，可是你一旦到了住跟行的阶段的这个时候，贫富不均，就慢慢凸显出来了。所以我是觉得这个也是新古典学派以外一个比较不同的看法。那么吴老师也提到腐败的这个因素，昨天我们也大致提到了这个，这个我是非常同意，如果你看印度跟中国，依据世界三大腐败指标，印度与中国是一模一样，同一个等级的腐败。但是我的一位老师提出，他说有差别，他说

印度的腐败是缺乏生产力的腐败，中国的腐败是具有生产力的腐败。他说中国的腐败是让蛋糕变大，那印度的腐败，蛋糕没变大，只是重新分，所以，腐败不是完全一样的，这个让我起了一个联想。吴老师也说到 GDP， per capita GDP 的上升，但是分布不平均，这就是和谐这方面的问题，吴老师也提到世界工厂，我是一直认为中国的过度依赖出口，中国的成为世界工厂，其实是有相当大的负面效果，待会我在下面还会再提一下。陆老师提的那个人口啊人均差异啊，我非常赞成，我也学习到了不少东西，比如说提到那个有钱的地区人口老化，似乎看起来比较严重，可是如果你把人口移动，这个 emigration 问题加入里头考虑的话，其实乡村地区更严重。农民工出去的不可能是 65 岁 70 岁的老先生出去城市打工嘛，都是一些一群年轻人，刚刚也提到如果是菲律宾式的农民工那就惨了，这个我深深同感。因为我在台湾，我父亲还没有过世的时候，我也替我父亲请了一个看护，也是来自菲律宾，有时候也蛮为他们难过的，所以菲律宾的打工方式我觉得中国要好好借鉴，我觉得这是一个非常对的事情。这个也是我们留美中国经济学会一项非常担心的事情，几年前我们就曾经向温家宝，温总理提供了一些我们的政策，如何让外资转向内陆。因为时间的问题我在这里就不做讨论，那么再如果，外资能直接到比如说到安徽投资而不是在上海投资的话，这个对于安徽的很多农民工，他们就不必往上海跑，对不对？除了本地的税收提高外，农民的所得也提高，刺激消费，商业资本主义、商业资本化，慢慢的会对内陆有所贡献。时间问题我在这边就不再多提。严老师提出的农民收入问题，政治上 4 个农民抵 1 个居民，这个我是第一次听到，但是我并不觉得意外。因为这个所谓的 Pro-urban Bias，对于城市的一种偏袒，这个中国传统的就是共产主义之下，一直有这个现象，而这个不止是中国的问题，所有的开发中国家都有这个问题。至于如何解决，这个是我们需要讨论的，这个也让我联想到昨天我们中国民族大学那位老师，非常激动的讨论这些严重的问题，那时候让我有所感触，因为让我想起来一句话，大致把它翻译过来的话就是说，你对一个国家文明程度的评价，就是要看它怎么样对待它的弱势群体。所以我觉得这个是我们和谐社会要讨论的，怎么样对待弱势群体。这是对一个国家文明程度的重要衡量指标。高桥老师讨论的

題目，與我的觀點不大一樣，高桥老师看的是比较全面的，我是看的比较微观。从一个企业组织市场组织的观念，就好像是有一个大的垄断厂商，它以高利润、高价位剥削消费者。那合作社这个概念我了解，我也同意，可是从市场、市场组织来讲的话，从某一个观点，我们已经有了。像家乐福，沃尔玛，从某一个观点来讲就是这种组织，它有自己强大的消费购买力压低垄断者的价格，以低价位把一些利润分享给一般的消费者，从一个组织的观点，间接上似乎有了这么一个消费合作社的概念。田中老师提出的韩国台湾的比较，我个人是有相当大的感触，因为我是台湾长大的，所以像田中老师提到的外资技术人口的退出，自己开公司，我在台湾都亲身看到过。台湾的新竹工业园区，就是这样子建立的，是政府有意的政策引导，对这些有技术的，在外资公司退下来的，带着技术回来的人才，政府给他融资，政府给他一个新个地区让他开发，那这些从国外回来的技术人员，他的孩子，为了让他们有好好的社会转型，在那样的学校也是先从外语的教育，慢慢的把他们转向成国语，普通话式的教育，所以这些都是政策里头所提出来的。但是我认为台湾跟韩国它有它不同的地方，韩国走的是大企业集中路线，台湾是中小企业，各有利弊，如果讲一个厂牌一个公司的形象问题，韩国成功太多了。你到美国，你提韩国，那么就是 LG，Hyundai，三星。台湾想不出来，这个是大企业和小企业的差别。对不对，这就很不好说了。我有写一篇 paper，看 1980 年台湾一百大企业，再看 1990 年的台湾一百大企业，有一半以上没有重合，十年之间，转换了那么多，这是中小企业的一个特色。中小企业，我刚才讲过，品牌的知名度是一个问题，但是它的灵活性则是優點，像韩国，它的经济出现问题，就是其中的一两个大企业出问题，它就被拖垮。台湾中小企业，倒闭了几百个也没关系，损失有限，所以这个也是一个需要考量的问题。因为已经在警告，时间有限。那么现在我们就直接引到，讨论一下山田老师，我很赞成山田老师里头提到对于出口依赖度，中国这是一个弱点，已经强调過，世界工厂未必是完全正确得。这个也是需要考量，山田也提到政治稳定是刺激经济增长的一个前提。我想到美国已经过世得一个工业家 Armand Hammer，他说任何国家我都可以跟它做生意，只要政治稳定。只要我需要贿赂的那个人不变，任何国家我都能够做生意，当

然这有一点负面了,但是显示出一个政治稳定的重要性。最后,与会的都是已经成熟的学者。刚刚出道的讲究的是数学,讲究的是模型,我是一直希望我们开始向政策方面讨论。譬如说我们讲环保,环保有 Kuznets 的环保线。污染的上升随着工业的发展,成熟以后下降,那我提出,我们为什么不弄一个隧道型的发展?空气污染到了这个程度我们为什么要容许它发展到了恶化的顶端再下来?我们为什么不利用政府政策在尚未恶化前打一条隧道直接穿过 Kuznets 線中間?这种思维才是我们迎接下一步挑战的态度,谢谢!

○座長 どうもありがとうございました。もう時間がほとんどありませんが、せっかくですから時間を10分ぐらい延ばしまして、会場からコメントないしはご意見、ご質問等をいただきたいと思っています。最大で2人ぐらいを考えておりますが、いかがでしょうか。では、毛里先生。

○毛里 ありがとうございます。私は早稲田大学の毛里和子と申します。今日は、大変面白く拝聴しましたが、2つの点で意見をうかがいたいと思います。

1つは、この30年間の改革開放でいろいろなことが生じたと思いますが、経済の分野で基本的に、いわゆる目標とした市場化をどの程度達成したのでしょうか。あるいは目標の方向に向かっているのかどうかということで、皆さんがどう判断されるのでしょうか。どなたかお一人でもいいのですが、非常に大筋のお話をうかがいたいと思います。

うかがう理由は、かなりの数の経済の研究者が、特に1990年代以降の中国の経済成長にとって、国家や党、官僚が経済的に極めて重要なアクターであり、人によっては国有資本主義とかそのような指摘する人もいます。これが中国の学会でも相当な議論になっているということは私も知っておりますが、これをどのように見るのでしょうか。これが今後の中国を考える場合にも非常に大きい問題です。

要するに、目標とどのぐらいの距離があるのでしょうか。あるいは国家によって推進された市場化が、われわれが考えている資本主義とずいぶん違うのではないのでしょうかと考えますので、それを1つ伺いたいと思います。

もう1つ、これは嚴善平先生にうかがいたいと思います。先ほど初めて嚴先生から、あのような発言を聞いたので大変驚いています。要するに、経済の問題は政治で解決せよということだったと思います。

私は、例えば労働力の移動、戸籍制度、あるいは改革開放で変わらなかった制度がいくつかあります。なぜ変わらないのかという非常に深刻な問題だと思っています。例えば、戸籍制度は実態的に労働移動が活発に生じているのに制度が変わりません。それ自身が農村における、嚴先生に言わせれば、生産力の発展をコントロールしてしまっている状況だというのですが、私は農業生産性の低さは、基本的には経済自体にあると思います。この30年間の市場化政策にあると思います。あるいは土地制度にあると思います。土地制度については、李春利先生が非常に適切なことを指摘されたと思いますが、経済およびそれをめぐる制度上の問題が、例えば、戸籍制度も変えなくしているし、あるいは農民が第三等市民とか、第二等市民と言われる政治状況が生まれていると思います。この点についても一度、なぜ政治的なコントロールが経済の生産性の低さに直接結び付くのかという論理をうかがいたいと思いました。

○座長 ありがとうございます。ただいま2点ほどご質問がありました。1点は解説するまでもなく、目標とされた市場がどの程度達成されたのかという問題です。もちろん、ここには国家ないしは政府の関与の問題がありますが、この点が第1点。これはどなたかにお答えいただきたいと思っています。第2点目は嚴先生に対するご質問ですので、これは嚴先生からお答えいただきたいと思っています。

まず第1点目について、どなたかいらっしゃいませんか。それでは呉先生、お願いします。

○呉 很高兴这个问题很好,我是在国内改革开放这么多年,我78年进大学,到现在,整个过程过来,我想是这样,这个目标并不是事先设立很明确的目标。但是在这一个三十年当中,我个人认为是有这么几个,一个我们认为方向,我们认为正确的,方向是正确的,沿着正确的方向前进,这是什么特点呢?就是让市场机制成为我们发展的基础,这个事目前这个基础越来越强烈的奠定。整个

过程当中很复杂，其实从商品经济，从计划经济到承认商品经济到承认市场经济，其实一段一段这么过来，但是现在越来越明确，市场经济、市场机制成为基础作用，发挥给我们基础作用，这是从中央的文件到地方都强调，从企业的发展，就是这样。正因为是这样，从我来说的话，对中国未来的发展我认为应该是很有信心，为什么，作为一个社会包括民主化的进程它重要的基础是什么东西？是价值体系的多元化。正因为市场经济使得中国社会变的越来越多元化，这个多元化而且不以人的意志为转移，不是说以某些官员的意志为转移，目前中国市场化进程我认为已经到了一种根本就不可逆转。所以说不管是谁作为一个政权的当政者，它都必须承认市场经济，接受市场机制，这是一个很好的一个特点。所以从这一点来看我觉得，方向是很正确的，进展是很积极的。这个我认为是一个很乐观的，很好的方面。

○座長 それでは嚴先生。

○嚴 毛里先生、ありがとうございます。先生に教えていただく立場にいる者ですから、あまり答えられるかどうか自信がありません。

戸籍制度について、これは法学、政治学、経済学等、いろいろな学問分野で研究されています。例えば人口移動を考える際に、これが1つの障害になってくることはよくわかります。私が指摘している格差問題、その背後にある農村人口の数が減らない、農村の世帯数が減らないという背景には、経済が発展するなかで、本来は農村から都市への人口移動、それは個人ベースではなく、いわゆる挙家移動です。家を挙げて移住するというプロセスが中国では阻止されています。その阻止をするための手段として戸籍制度があります。

なぜそれをなくすことができないかということですが、逆に言うと、都市戸籍を持つ都市住民はある種利権化しています。そのパイが大きくなっています。なっているなかでも、それを自分たちが独占したいという動きがあります。その局面を変えるためには、あれこれ考えた結果、農民たちが政治的な発言権を強めて、自分たちにもその権利があるのだということをやらなければ、この格差構造を変えられないという確信を、ここ数年強く思ったわけです。

先生がおっしゃった土地問題は大きな問題で

はありますが、土地問題を解決できても、今、言ったような政治権利の不平等が解消されなければ、都市農村の格差構造は変えられないのではないかと考えています。

○座長 ありがとうございます。李先生、1分でお願します。

○李 毛里和子先生のご質問に対して一言だけコメントします。私は都市化に反対です。アジアの大都市はいずれも大きすぎます。今、都市問題や交通問題、公害問題について中国語の単著を執筆している最中です。これまで自動車について研究してきたのですが、これほど密集した大都市に何千万人もの人々が住んでいて行き来していること自体、セキュリティー上大きな問題があります。大都市群のことをメガロポリス(megalopolis)とも読んでいますね。私は賛成する立場をとっていません。以上です。

○座長 都市ではなくて土地問題です。土地所有権と使用权の問題に触れたので、それを毛里先生がおっしゃったわけです。

ということですが、あとお一人いらっしゃいませんか。では、所属とお名前をお願いいたします。

○会場(一般) 三重大学の名誉教授で、愛知大学の非常勤をしています今尾と申します。直接的には、先生方の誰にというか、本当はコメンテーターの李先生が一番関連する問題ですが、今、金融恐慌が一番困っているのはビッグスリーで、自動車産業です。日本もトヨタをはじめ、このへんが一番問題になりますが、中国のこれからの発展は自動車産業がどうなるのかという点です。世界のリーディング・インダストリー(leading industry: 主導産業)に関連する問題です。どなたでも結構ですが、その問題について。やはり経済の問題は非常に開発と関連がありますので、お答えいただきたいと思います。

○座長 それでは李先生、いかがですか。簡単にお答えください。

○李 さきほどお話したように、実は今、中国語で単著を書いています。中国語では『汽車社会と交通戦争』(クルマ社会と交通戦争)というもので、20万字ほどの仕事をもらってききましたが、まだ10万字しか完成しておりません。そのうち日本語版の出版も考えておりますので、クルマ社

会と交通戦争の問題を正面から取り上げていきたいと思います。日本がかつて1960年代、あるいは1970年代に経験したことを、中国が30年ぐらいのタイムスパンで遅れてそれを繰り返そうとしているのは本当によくないことです。そこで日本に限らず欧米の経験も踏まえて、都市計画、人間と車の関係を考えていきたいと思います。

それから、ビッグスリーの窮状はともかくとして、自動車産業の未来を考える場合は、結局、人間対機械（man-machine）の関係を根本から見詰めなおすことが不可欠だと思います。この間の石油価格や資源価格の高騰はちょうど見直しをするには絶好の機会なのではないかと思います。ビッグスリーの問題は何かといえば、いろいろありますが、やはり頭の使いすぎといいたいまいしょうか、マイケル・ポーター（Michael E. Porter）的な利益を稼ぐことを優先させるポジショニング戦略を使いすぎて、真正面から日本が得意とする小型車による挑戦を受け止めきれなかったことによるところが大きいでしょう。それに対して、日本企業はあたかも体育会系のように、コツコツと

愚直かつ堅実に現場での工夫を重ね、得意な技にさらに磨きをかけてきました。日米自動車企業の違いは基本的なところで以上のようなものではないかと思います。

○座長 ありがとうございます。

今日は午前9時半からこれまで、約3時間近くになりますが、経済セッション「経済成長と和諧社会の展望」は、これで終わりにしたいと思いません。

今日のご議論、あるいはコメント、会場からのご発言をお聞きしたとおり、経済面から見た和谐社会と開発という問題も非常に幅広くて、とてもまとめようがないということだけははっきりしたと思います。今日、この議論を手始めとして、またこの問題についての関心を高めていただいて、そして中国の今後の在り方を考える大変よいテーマの1つでもありますので、ぜひともこれを機会に、皆さま方、また一層のご関心をお寄せいただければと思います。

どうもありがとうございました。これにて終了いたします。